

がくじ



摂南大学図書館報

No. 50

1997.6

学而時習之、不亦説乎。（「論語」より）

—学びて時にこれを習う、亦た説ばしからずや—

*題字は王羲之の書による

50号発刊に際して

図書館長

かみの
神野けいいちろう
慧一郎

本学図書館が創設されて以来、今日に至るまで、歴代の諸館長始め諸館員のなみなみならぬ努力と工夫があり、その積み重ねが、本館の今日の地位を築いた。本学の図書館が、その規模は大きくなくても、他大学からの敬意をかちえている所以も、その努力と工夫にある。深い敬意を表したい。そして、図書館報『学而』が発刊されて以来、13年がたち、今回で50号を数えるに至った。

館報50号という号数それ自体には、切りのよさ以上の意味があるわけではないが、50回も館報を出すには、それ相応の創意工夫と熱意と努力が必要である。常に生新の気風を盛り込みながら一つの事業を一貫して維持することは、決して生易しいことではない。『貞観政要』にある有名な言葉に、「草創（創業）と守文（守成）といずれが難き」というのがある。貞観の時代というのは、唐の太宗の治世であり、理想的な統治が行われた時代の一つとして知られている。太宗の死後、権勢を振った則天武后に、23年間も幽閉されていた中宗が復辟した時、史官の呉兢が、太宗のような時代が再び来ることを望んで、太宗の言行を中心に編纂し、中宗に献じたのがこの書である。

そこには守文のむつかしさが述べられている。

わが図書館も守文の時代に入ったと言えようが、守文ということは、むしろ、単にこれまでのことを墨守するということではない。特に現代のような変化の急速な時代にそのようなことは許されない。昔と今とは、大学の図書館に求められるところは、同じではない。それに応じて、図書館が利用者に応えるサービスの形態も、多様になった。図書館は、変革しつつ守成しなくてはならない。そうしたむつかしい時期にさしかかっている本学図書館のために、あらゆる面でご助力を賜りたく各方面に切にお願いしたい。

しかし、図書館のもろもろの機能が如何に変化しても変わらない一つの機能がある。それは、言うまでもないことだが「知」のメディアとしての機能である。「知は力なり」というのは、必ずしも適切な警句ではないが、やはり、優れた知性と豊かな心性を持つことこそが人間の証であり、そうした目標を達成するための手段の宝庫が図書館であろう。本学の図書館が、今後とも、その果たすべき機能を十分に発揮するものでありうると念じている。

（経営情報学部教授）

～ 目 次 ～

50号発刊に際して（館長・神野慧一郎）	1
歴代館長から一言 （布目潮涵・田村満穂・堀浩・田中古之助）	2
新入生の感想-図書館を使ってみて （知識春奈・西本高志）	3

館報に見る図書館の歩み	4, 5
図書館利用統計（1996年度）	6, 7
特色ある新着資料	8
新入生対象ライブラリーツアーを実施	8

～歴代館長から一言～

これまで本学図書館の礎を築いてこられた歴代館長から、記念すべき50号の発刊に当って一言お言葉をいただきました。学生諸君とともに私たち館員もまた、示唆に富み励ましに満ちた言葉を味わいつつ、新たな明日に向かって歩んでいきたいと思ひます。

ぬのめ ちようふう
布目潮風 (1984.4～1990.3)

「学而」は私が館長の時に命名して発刊し、50号を迎えたが、これは孔子の『論語』から取ったものである。もう一条『論語』を挙げよう。「知るを知ると為し、知らざるを知らずと為す。是れ知るなり」(知之為知之。不知為不知。是知也)。この条は孔子が奇矯な行為と思索を好む弟子の子路に、認識とは何か、学問とは何かを教えた言葉である。私は今も各地の教養講座で中国史を教えている。受講生の基礎知識が多様なので、術語を使わないようにする。これはなかなかむづかしい。苦しんでいると、実は私自身がよくわかっていないことがわかった時もある。簡単にわかったと思うことも危険だし、わかっていないということがわかるのも、認識や学問の進歩であると思う。



はなわ ひろし
埴 浩 (1992.4～1994.3)

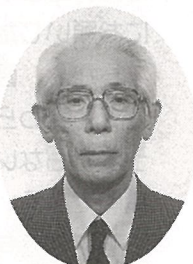
書物その他の情報が氾濫している現今です。新しいものを追いかけるのに、皆多忙です。しかし、人の心の中に横たわる不変なものもまた多いはず。この不変なものを知ろうとする構えを、つねに心の片隅でとることは、必要なことでしょう。これを知る有効な一方法は、古典を読むことです。古典とは、時の試練に堪え抜いた本をいいます。先人たちの教えは、たとえ古いようには見えても必ずや今でも役立つはず。そして、ことの新旧の別を問わず、この図書館報名の「学而」の出所である「学びて時にこれを習う。また、説ばしからずや」にあるような、心のゆとりを持ちたいものです。



たむら みつほ
田村満穂 (1990.4～1992.3)

館報「学而」の発刊が50回を重ねるに至ったことは、誠にご同慶の至りである。

21世紀を展望して、いま世界は大きく変わりつつあり、わが国でも各界各層で問題が噴出し、大きな変革を余儀なくされている。その速度と深度において尋常ならざるこの変革を、誤たず成し遂げその成果を将来に正しく打ち据えるために、われわれ自身の確固たる足場を築く必要がある。そのために肝要なのは、個々の片々たる専門的知識を越えた各人の生きざまに関わる人間的モラルの確立であろう。それは「人間および生きることについての教養」と言い換えてもよい。生涯かけて反復学習すべきこの課題へのアプローチに、図書館資料を存分に利用されるよう望みたい。



たなか きちのすけ
田中吉之助 (1994.4～1996.3)

1984年創刊の図書館報「学而」がここに50号を迎えました。この間の皆様方の御指導、御援助、ならびに図書館職員の御努力、御研鑽の賜と存じます。図書館は私共に大きな歓びと安らぎを与えます。まさに「学びて時にこれを習う。また説ばしからずや」であります。

大学図書館機能、あるいは大学図書館における電子図書館の機能につきまして、学術審議会やその部会から建議や報告が行われておりますが、これは今後の重要な課題であり、大きな変革をもたらすものと考えられます。図書館の益々の充実と図書館職員の不断の研修を希求して止みません。



◆◆◆◆◆ 新入生の感想－図書館を使ってみて ◆◆◆◆◆

私が初めて摂南大学の図書館へ行った時、正直言って「高校と一緒に」という印象を受けました。図書館のシステム等がほとんど同じだったからです。しかし、じっくり図書館の中を歩いてみると、高校よりもはるかに実用的な図書館であることがわかりました。そう感じた理由のひとつに、専門書の数の多さがあります。ちらっと見ただけでもいずれ私もお世話になりそうな本がたくさんあったので、早速チェックしてみました。そして、閲覧室の広さにも驚きました。本を読むだけでなく、勉強をするのにも静かでいい場所なので席がたくさんあるのは本当に助かります。

また、希望図書購入制度についても、高

校ではあまり希望がかなえられないことが多かったのですが、ここはほとんどの希望がかなえられるようなので、期待が持てます。

私は趣味でよく本を読むのですが、一般書の充実していることも嬉しく思います。

暇なとき、ちょっと時間を潰したくて立ち寄ったときも、退屈するどころか、時間を忘れて読み耽ってしまいました。

初めて図書館に入るときは少し躊躇しましたが、いざ入ってみると、受付のお姉さんが笑顔で迎えてくれて、安心したのを覚えてい

ます。これから4年間、図書館をフルに活用するためにも、もっともっと図書館へ通ってみたいと思います。

図書館を使ってみての驚き！

国際言語文化学部 1 年

ちしき 知識 はるな 春奈



私は、摂南大学に入学してこの枚方学舎にも図書館があると聞き、いったいどんな本があるのかと思って行くことにしました。ところが、いざ入ってみると雑誌コーナーに関西ウォーカーやテレパルのようないろんな身近な雑誌が置いてありました。これはラッキーと思い、利用していました。

そんなことを数回重ねるうちに、多くの人がいるにもかかわらず図書館がとても静かなことに気が付きました。そのうちの先輩らしき人は、とても真剣で、まるでなにかの試験を受けているかのように集中しているのがわかりました。自分はこんなモノを読んでいいの、と考えつつも雑誌を読みふけって

るうちに、とうとうレポート提出という状況に陥り、この図書室を本当の意味で使いました。そして、レポートを書き終えて、辺りの本を適当に手に取り、見ると……。こ

れが全く理解できませんでした。何か、大きなカルチャーショックを感じました。この時は、イラつき半分でしたが、未知の知識との遭遇ということに変わりはないと思います。まだ図書館へ行ったことのない人は、行ってみると良いと思います。

ここには、何か分かり

ませんが密かに鼓動している何物かが潜んでいる様です。私は時間の限り、その正体を見極めるため図書館へ足を運ばざるを得ない気持ちに駆られています。

図書館で何をする？

薬学部 1 年

にしもと 西本 たかし 高志



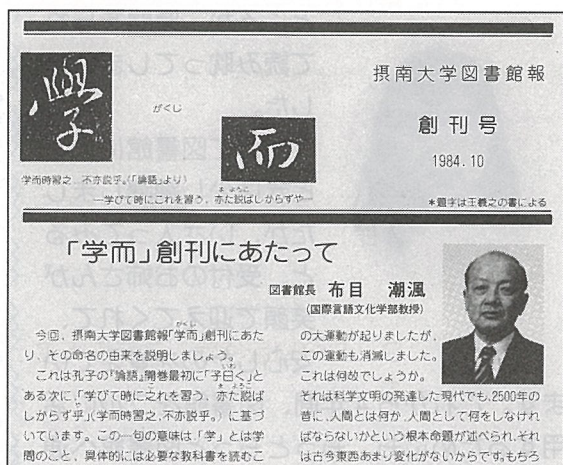
一館報にみる図書館の歩み一

本紙「学而」が1984年10月に創刊されて13年が経過し50号を迎えることになりました。

この13年間に“摂南大学図書館”もいろいろと変化してきました。どのように変わってきたか図書館報にそって、みてみましょう。

創刊号(84.10) 図書館報創刊

* 初代、図書館長 布目潮温先生が「学而」創刊にあたり、その命名の由来を説明



* 法学部の増設に伴い、図書館を拡張、現在の図書館の姿になる

ワープロの貸出は視聴覚室で、希望図書購入制度に新しい仲間「速図くん」



No.2 (85.1) アンケート特集：図書館への注文

* 調査内容は「所蔵検索端末機について」「館報『学而』について」「校方分館の利用について」

No.4 (85.7) 数字でみる図書館の10年

No.7 (86.4) 所蔵検索システムが改善されたよ

No.9 (87.3) 今後における整理業務について

* 1985年度から学術情報センターが日録所在情報サービスを開始(本学は87年度に同センターと接続)

情報化社会への対応

ーオンライン情報検索ー

* DIALOG, JOIS, DIALINEについての利用紹介

No.11 (87.10) 校方分館が拡充されました

* 校方分館が増築され、図書収容能力が約3倍、閲覧室座席数が1.5倍に拡充

NACISIS-IRサービスの紹介

* 学術情報センターの情報検索サービスを開始

No.12 (88.1) 雑誌アンケート調査御協力ありがとうございました

別冊No.1 (88.5) NACISIS-IRシステム紹介

No.13 (88.4) 新図書館紹介

No.15 (88.10) 「聞く本」カセットブックが仲間入り

No.16 (89.1) 日本語・日本事情コーナー

* 留学生や帰国子女への援助のために1988年4月に設置
CDライブラリーますます充実

* 所蔵資料400点突破

別冊No.2 (89.6) 図書館本館におけるオンライン外部データベース情報検索サービスの紹介

* 89年6月19日よりJOIS, DIALOGのサービス開始

No.19 (89.10) NDC 8版採用に伴い分類番号一部変更

No.20 (90.1) フロッピーはカウンターで受取って下さい

* フロッピーが付録についている資料ばかり集めた「SOFT GOODS CORNER」を設置。FD付資料は目印にバンダマークを付ける

No.23 (90.11) 環境問題関係図書をまとめて購入しました

分館でもCDソフトの貸し出しをはじめました

No.25 (91.4) 学部生の貸出冊数5冊までOKに

* 従来の3冊から5冊に拡大

本館にCD-ROM登場

* CD-HIASK (朝日新聞全文記事データベース)

No. 26 (91.6) 入門書コーナー新設

* 学部、学科、コース別の基本図書、専門分野への入門書を集め展示したコーナーを新設

No. 28 (92.1) コレクション形成事業がスタート

* 個性あるコレクションを形成し、蔵書構成の特色化を図ること等を目的としてスタート

No. 30 (92.6) ILLシステム4月から本格稼働

* 学術情報センターのILLシステムが本格的に移動した。これは全国の国公私立大学等をオンライン・ネットワーク方式により文献複写・図書の相互貸借にかかる依頼・受付情報をリアルタイムで交換するシステムです

No. 32 (93.1) 試験期開館時間の延長を実施

No. 35 (93.10) CD-ROM「MEDLINE」「日本薬局方解説書」が分館でサービス開始

電子ブックプレイヤーの館内貸出を始めました

No. 36 (94.1) 法律図書館連絡会に加盟

* 93年11月に新規加盟

No. 38 (94.6) 新入生ライブラリーツアー実施

* 利用者教育の一環としてライブラリーツアーを企画した。ツアー内容は施設紹介・端末機操作方法まで図書館利用のノウハウについて図書館員が引率して40分程度の説明を行いました

No. 39 (94.10) 枚方分館に閲覧室新設

* 座席数を増やすことはもちろんのこと、図書館閉館後も自習ができる場所を利用者に提供することを目的として設けられました。9月5日から利用開始

就職コーナー新設

一般市民に図書館公開

* 10月3日から、一般市民の方の学術研究・生涯学習等に便宜を図ることを目的として図書館を公開

No. 40 (95.1) 学而創刊10周年、40号発行

No. 42 (95.6) 開館時間を延長

* 4月から月～金の開館時間を9:00～18:50とした

クローズドキャプションによる英語学習

* 視聴覚室にクローズドキャプション・デコーダー付ビデオを設置。ソフトも購入

No. 43 (95.10) 閲覧室(本館)開室時間を午後10時まで延長

* 4月に午後9時まで延長、10時までとした

名作ビデオClassic Film Collectionに寄せて。

* 映画誕生100周年を記念して企画された同コレクションを購入

No. 45 (96.4) 開館時間を19:00まで延長!

* 95年4月に試行として開始した開館時間の延長を更に10分延長し19時までとして本格開始

オーバーナイトローン制度スタート(本館)

* 4月から、閉館後館内に眠っている図書資料を有効利用していただくため一泊貸しを行う制度をスタート

CD-ROM版検索システムを使ってみて

* 学術情報センターに登録した大学の所蔵図書を検索できるCD-ROMを4月に導入

No. 39 摂南大学図書館報 (7)

枚方分館に閲覧室新設

枚方分館に閲覧室が新設されました。この閲覧室は座席数を増やすことはもちろんのこと、図書館閉館後も自習ができる場所を利用者に提供することを目的として設けられました。

座席数は57席あり、これまでの座席数不足が大幅に改善されました。また、開室時間は9時から22時までとしており、図書館閉館後も閲覧室は利用できます。9月5日の利用開始以来、夜遅くまで利用者がおり、図書館側としても喜ばしい限りです。

それから閉館後にも図書館の蔵書を利用しやすくするためにオーバーナイトローン(一夜貸し)の制度を採り入れました。これは閉館後30分前から次の開館日の9時30分まで貸出する制度です。この制度の利用者の便宜を図るためブックポスト(図書返却用ポスト)



していて返却できない時、そんな時に利用して下さい。

閲覧室では喫煙、飲食はもちろん禁止です。それに、私語は慎んで、他の利用者の迷惑にならないようにして下さい。

図書館では利用者の皆さんが、快適に学習、研究ができるような環境づくりを進めていく

(8) 摂南大学図書館報 No.45

開館時間を19:00まで延長!

図書館では、利用者へのサービス向上のため、今年度から全図書室の開館時間を19:00まで延長します。

今回の変更で、視聴覚室・学術雑誌室(本館4階)は、これまでよりも2時間10分延長されることになり、5時限目の授業終了後も十分に利用できるようになりました。ビデオテープやカセットテープを使った語学学習、レーザーディスクによる名画鑑賞、ワープロによるレポート作成など、みなさんのご利用をお待ちしています。

変更後の各室の開室時間はつぎのとおりです。

【本館】	普通図書室、参考図書室
	視聴覚室・学術雑誌室・雑誌書庫
	第1～3閲覧室(ただし、利用状況によって一部変更します)
	9:00～19:00
	第4閲覧室
	9:00～22:00
	【分館】
	普通図書・参考図書コーナー
	学術雑誌室
	9:00～19:00
	閲覧室
	9:00～22:00
	* 保存書庫の使用は18:00まで

オーバーナイトローン(一夜貸し)制度スタート(本館)

参考図書など禁帯出図書も貸出、閉館時はブックポストに返却

No. 46 (96.6) 雑誌記事索引はCD-ROMで医学中央雑誌CD-ROM版導入

No. 48 (97.1) 図書館利用実態調査を実施

* 96年10月に全学生・教員を対象とした調査を実施

No. 49 (97.4) 「フマーニオール・コーナー」新設

* 学生諸君により豊かな心をもってもらう為に、多数の教員からの推薦図書を集めたコーナー

図書館利用統計（1996年度）

図書館では、利用者の動向を把握し、図書館運営の参考にするため、毎年利用状況を集計し、各種統計を作成しています。

今回は、主として学生利用者に関するデータを紹介します。

1. 利用状況総括データ

<総括表>

()の数字は前年度比

項目	本館	分館	計
開館日数	265日 (-1)	271日 (±0)	—
入館者数	244,937 (-12,261)	185,803 (+3,291)	430,740 (-8,970)
貸出者数 (学生)	20,921 (-1,763)	3,180 (-447)	24,101 (-2,210)
貸出冊数 (学生)	41,867 (-2,732)	5,763 (-694)	47,630 (-3,426)

(注) 本館入館者数には閲覧室(3F)利用者数は含まれていません。

開館日数が本館で1日減少したのは、96年度から導入された大学入試センター試験による休館によるものです。

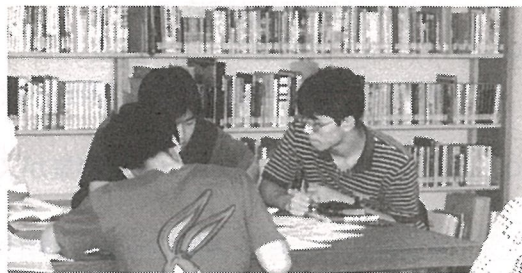
入館者数は、分館で1.8%増加しましたが、本館で4.8%減少したため、全体で2%減となり、過去最高であった前年度の記録を塗り替えることはできませんでした。

貸出者数は本館で7.8%、分館で12.3%減少し、貸出冊数は本館で6.1%、分館で10.7%減少しました。開館時間の延長やオーバーナイトローンの実施を開始し、学習環境を整えたにもかかわらず、利用が減少した理由は何でしょうか。今後つきつめていきたいと考えています。

2. 所属別貸出状況

所属別貸出状況では、国際と大学院は微増、経情は横バイ、他の学部は減少しています。

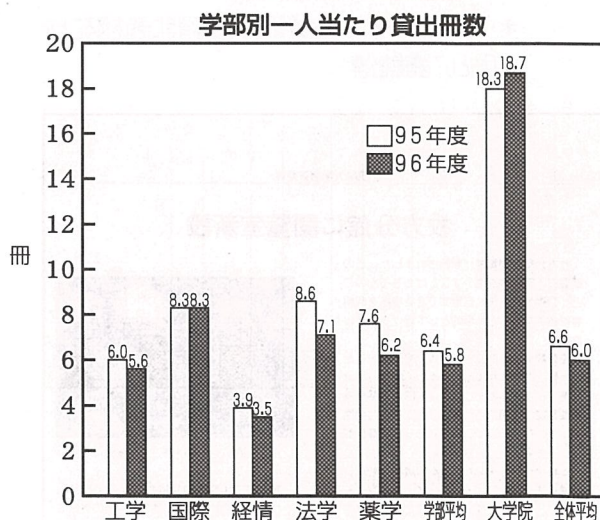
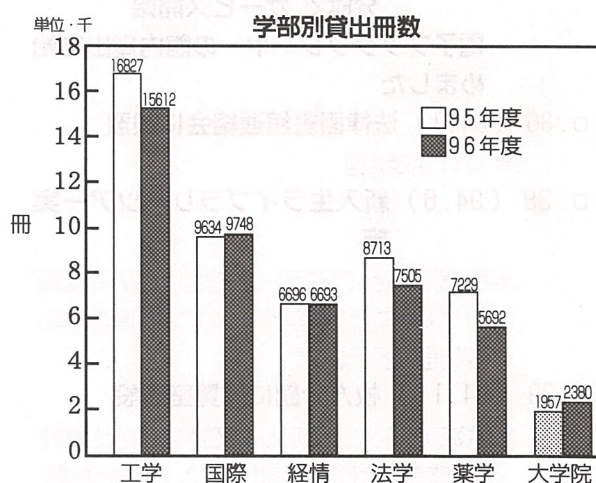
一人あたり貸出冊数は、最高が国際の8.3冊、最低が経情の3.5冊、学部平均で5.8冊、全体平均



均では6.0冊という結果になり、全国の私大平均6.8冊を少し下回りました。

ちなみに、全国の国公立大平均は9.1冊、関西大手私大平均は8.9冊で、いずれも前年度より増加しています。

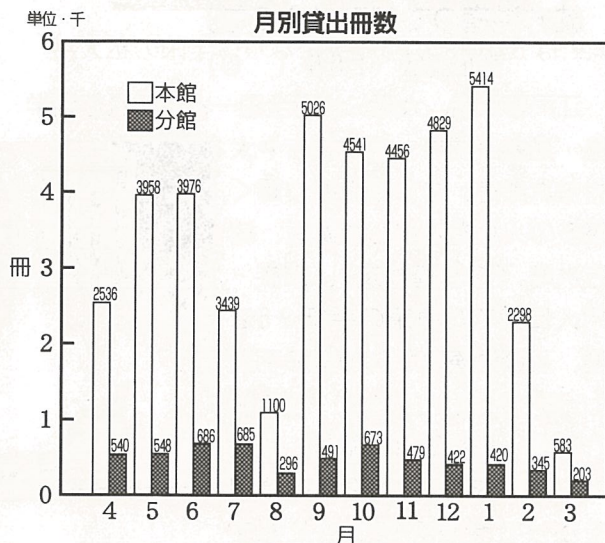
(注：他大学の数値は「日本の図書館'96」から独自に算出)



3. 月別貸出冊数

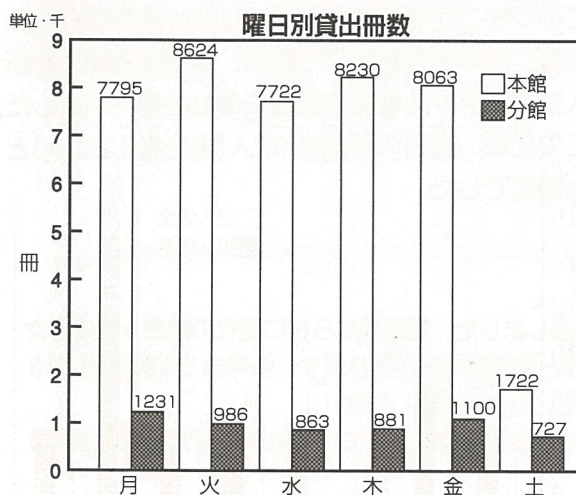
本館では、5月、7月、8月が増加しましたが、他はすべて減少しており、特にピーク月である6月と1月が大幅に減少しているのが目につきます。

分館では、9月から11月が増加しましたが、他は減少しています。ここでも6月が31%も減少しました。



4. 曜日別貸出

本館では、従来、最も貸出の多い曜日だった月曜日が大幅に減少し、火曜日、木曜日、金曜日より低い数字になってしまいました。この結果、分館と同じように、月曜日から金曜日まで平均した貸出状況になりました。本館・分館とも、土曜日の利用者が大きく減少しています。

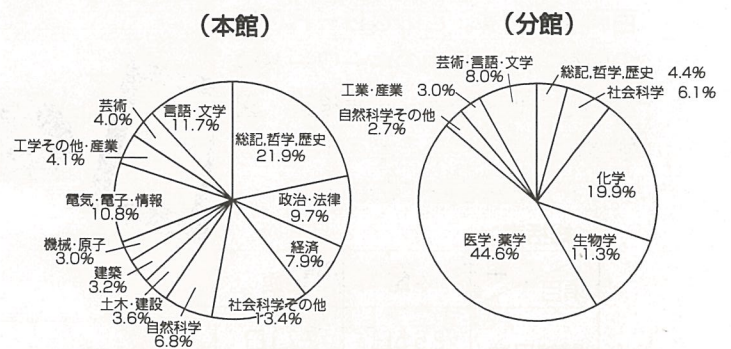


5. 分類別貸出冊数

本館・分館とも利用者の所属学部構成を反映し、ほぼ例年どおりの分類別貸出比率となっています。本館では「工学」が微減、その分「総記、哲学、

歴史」が増えました。分館では、「自然科学」が比率を落としています。本館の「社会科学」では「政治・法律」「経済」「工学」では「電気・電子・情報」が、分館の「自然科学」では、「医学・薬学」「化学」「生物学」が、それぞれ高い比率になっています。

分類別貸出冊数比率



おわりに

以上昨年度の利用状況を簡単に紹介しました。残念ながら、増加したのは、分館の入館者数だけで、他の記録は減少という結果になりました。しかし、ここで紹介した統計以外は、「相互利用件数」など22項目中16項目で増加しています。従って減少は全体から見れば一部ということができます。

分館の入館者数は過去最高記録で、94年度から最高記録を更新し続けています。本館の入館者数をフロア別に前年度と比較すると、19時まで開室するようになった視聴覚室が4%アップ、普通図書室が2%減少し、参考図書室はなんと15%も減少しています。

貸出者数、貸出冊数は、本館・分館ともに減少していますが、過去10年の推移で見ると、両館には違いがあります。本館は、前々年度以前よりは増加しており、前年度を例外とすれば、まだ上昇傾向のなかにあるといえます。一方、分館は92年度にピークがあり、次の年減少した後、横バイ状態が続き、96年度さらに減少しています。分館は貸出については、横バイないしは、減少傾向の中にあるといえます。しかし、薬学部はもともと貸出派より館内利用派が多いので、あまり問題ではないかもしれません。

図書館では今年度も、学習環境の整備を行い、各種サービスを充実させます。有効に図書館を利用していただきたいと思います。

～特色ある新着資料！～

〈本 館〉

CD-ROM版マイペディア97・百科事典

日立デジタル平凡社(R 031 M)

書名のとおり、CD-ROM版の百科事典です。このCD-ROMの特徴は、本文中のキーワード検索のほか地図検索・年表検索・図解検索等ができることです。

(5 F 参考図書室にあります)



レーザーディスク各種

パイオニアLDC

本紙(No. 44)でも一度紹介しましたが、今回新たに、79点を購入しました。主にオペラや洋画の名作です。例えば、オペラでは「ロッシーニ歌劇 セヴィリアの理髪師」「ヴェルディ歌劇 椿姫」「ヘンデル歌劇 ジュリアス・シーザー」、映画では「怒りの葡萄」



「マイフェアレディ」「ジュラシックパーク」などです。

(4 F 視聴覚室にあります)

〈分 館〉

緒方洪庵のてがみ (全5巻)

菜根出版(289.1 O)

江戸幕末期、大阪に当時全国一といわれた蘭学塾・適塾を開き、福沢諭吉や大村益次郎等、きら星の如く輝く幾多の人材を育成した蘭医、緒方洪庵。その洪庵が友人・家族・門人に宛てた直筆の手紙252通、及び洪庵ゆかりの者の手紙35通を全国から集め、写真版で掲載。それぞれに解説・現代文・解説を付し、22年の歳月をかけて全巻完結をみた医学史・洋学史の第1級資料です。



新入生対象ライブラリーツアーを実施

図書館(本館)では今年も、新入生対象のライブラリーツアーを実施しました。実施期間は4月8日(火)～11日(金)までの4日間でした。ツアーでは、館内各室の案内の他、配架ルールから検索機の操作方法まで図書館利用の基礎的なノウハウについて、図書館員が引率して説明を行いました。参加

者数は過去最高271人(申込者439人)でした。このライブラリーツアーは、1994年度から始められ、今年で4回目。今年は、実施期間を早め新入生ガイダンスの実施期間にあわせて行いました。このため、初日の参加者97人(申込者121人)と大盛況でした。

編集後記

- 本紙「学而」が1984年10月に発行されて以来、13年が経過しました。現館長ならびに歴代の館長4名の方々のご指導と教職員・学生の皆様方のご協力により今日の学而と図書館の姿があります。今号までに教職員223名・学生107名という多数の方々からご寄稿いただきました。心より感謝します。
- これからも、館員一同、気持ち良く・喜んで利用していただける図書館を作っていくために努力していきますので今後ともご協力の程よろしくお願いします。
- 今号からこれまでのB5サイズからA4サイズに拡大しました。

(S.T)

摂南大学図書館報「学而」No.50 1997.6

編集・発行 摂南大学図書館 本 館 〒572

枚方分館 〒573-01

印刷 (株)ミトヨ

〒534

大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL. (0720)39-9112

大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL. (0720)66-3102

大阪府都島区大東町2-13-10 TEL. (06) 922-1178